

弾丸道路 舗装構成

舗装	区間	延面	長積	表層	基礎	路盤
	自豊平 至月寒	2,435m 18,252m ²		コンクリート 厚20cm	切込砂利 40cm	在来道路盤
	自月寒 至島松	18,491m 140,866m ²		中粒式アスファルト コンクリート厚5cm 及封緘層	アスファルト マカダム4cm 砕石基礎6cm	火山灰 40~60cm 切込砂利20~30cm
装	自島松 至千歳	13,625m 104,386m ²		細粒式アスファルト コンクリート厚5cm	転圧仕上 セメントコンクリート 18cm	火山灰 50cm以上 切込砂利15~30cm

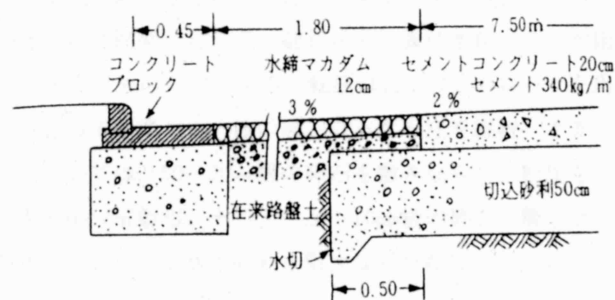


図-6・3・1 第1工区の舗装断面

延長2,435m、面積18,252m²の舗装工事は、大林組が施工した。版厚は20cmとし、単位セメント量は340kg/m³でAEコンクリートで実施し、舗装断面は図-6・3・1のとおりである。

6) アスファルト混合物の配合と密度

(1) 中粒式アスファルトコンクリート

中粒式アスファルトコンクリートは、中粒式アスコン、アスファルト、石、砂、粉の配合で構成される。

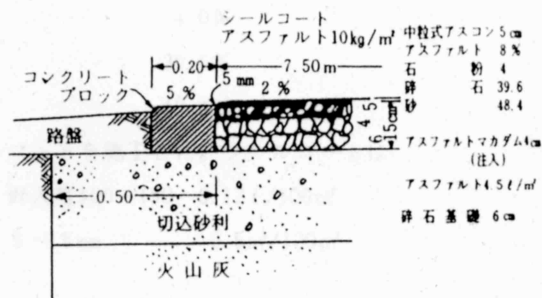


図-6・3・3 第2工区の舗装断面

路盤工の上に設けた6cmの砕石基礎は、基礎の再整形および再転圧の目的で設けたもので、改良工事の施工業者が仕上げた路盤に対して、舗装業者が責任を持つことが困難だと考え、納得できる路盤を仕上げてもらうためのものである。転圧は10t以上のローラを用い「砕石は一部破碎し、且つ、充分にかみ合って、揺がぬ一体の層となる迄転圧を継続」することとしている。

浸透式マカダム工については、50～30mm級の砕石を敷きならし、転圧をした後、アスファルト（針入度120～150）を3.0ℓ/m²散布、その上に20～10mm級の砕石を敷きならして転圧、1.5ℓ/m²のアスファルトを散布し、10～5mm級の砕石を敷きならし転圧・仕上げた。

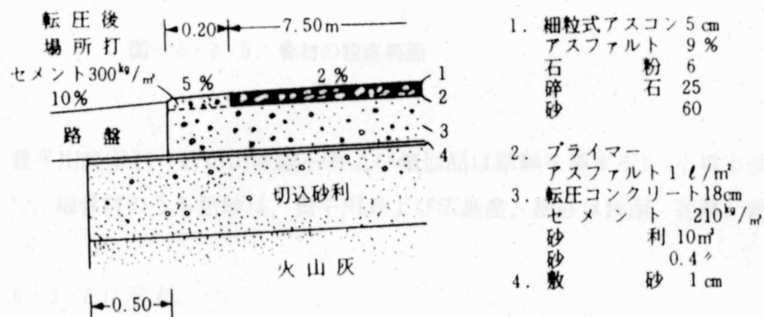


図-6・3・4 第3工区の舗装断面

この工区では、安価な漁川の切込砂利にセメントを150～180kg/m³を加えて、バルビミキサによる路上混合のセメント安定処理工を計画した。しかし、路上混合機の入手が怪しくなったため、プラント混合に変更、さらに、各方面の意見で高い曲げ強度を要求することとしたので、セメントを210kg/m³とし、転圧コンクリートとしたものである。

6) アスファルト混合物の配合と粒度

(1) 中粒式アスファルトコンクリート

第2工区の表層用混合物は、中粒式のアスファルトコンクリートとし、その配合は

アスファルト	針入度60~100	8.0%
石粉		4.0%
碎石		39.6%
砂		48.4%

とし、その上にシールコートを施工した。シールコートは

アスファルト	針入度100~150	0.12 t/100m ²
碎石	5~2mm	0.5 m ³ /100m ²

とした。

混合物の密度は2,200kg/m³以上、空けき率3~4%，ハバードフィールド安定度試験値40℃で3,500以下でなければならないとした。

骨材の粒度範囲は図-6・3・5のとおりである。

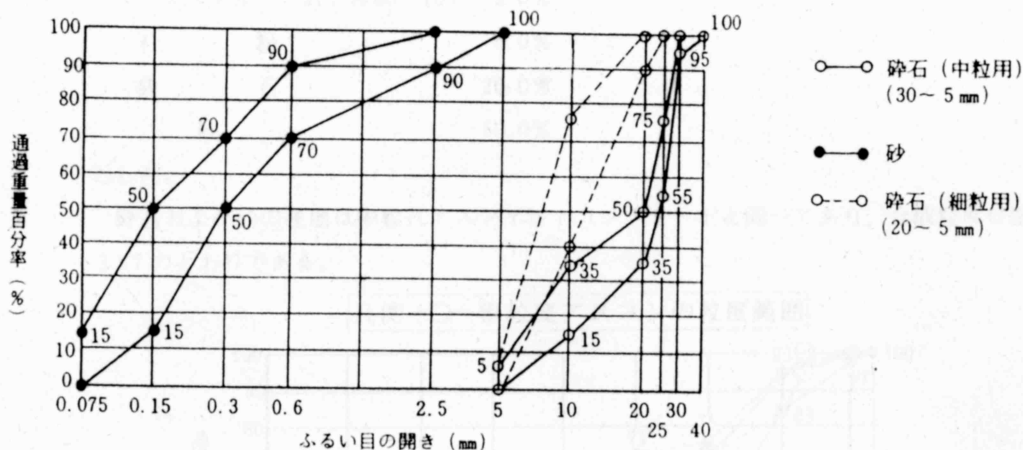


図-6・3・5 骨材の粒度範囲

碎石の指定は、豊平川産玉石（石切山産硬石および類似品は試験を要する）、小樽市張碓、稲穂山、朝里産とし、細骨材のうち粗砂は、豊平川および広島産、細砂は銭函、花畔、錦岡産と指定した。

合成粒度を図-6・3・6に示す。

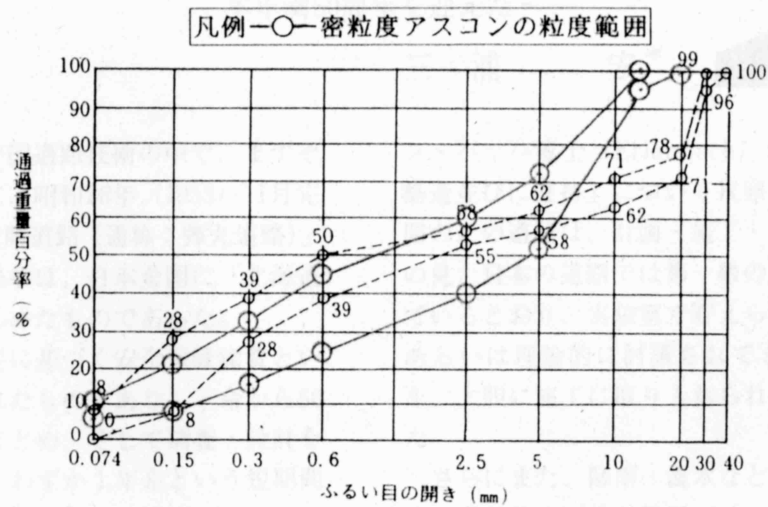


図-6・3・6 中粒式アスファルトコンクリートの合成粒度

(2) 細粒式アスファルトコンクリート

第3工区の表層用混合物には、細粒アスファルトコンクリートとし、その配合は

アスファルト	針入度60~100	9.0%
石 粉		6.0%
砕 石		25.0%
砂		60.0%

とした。

砕石および砂の産地は中粒式アスファルトコンクリートと同一であり、合成粒度は図-6・3・7のとおりである。

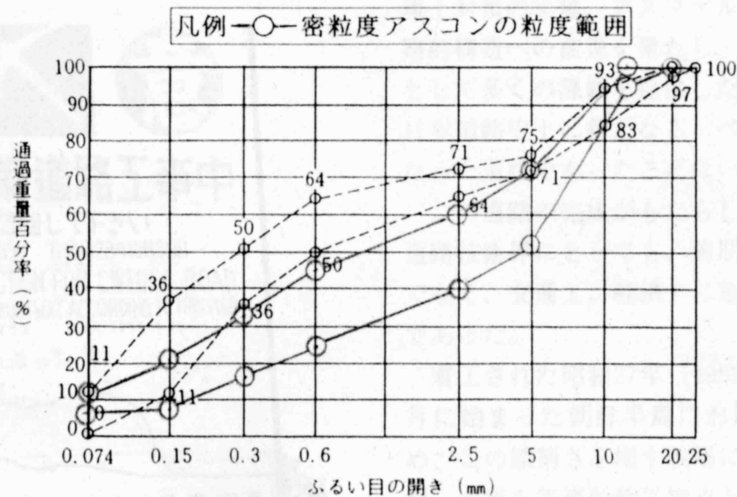


図-6・3・7 細粒式アスファルトコンクリートの合成粒度